

1

説明文は森山卓郎著『コミュニケーションの日本語』(岩波ジュニア新書、2004年)からの出題でした。主旨は主に最終段落にあります通り、「私たちは、意見に違いがあると感情的になることがあるので、自分が正しいと思うことは遠慮するのではなく配慮して言うべきである。」というものです。

問一

傍線(1)「ただ、理想通りにいかないこともあります。」とあります。「ただ」は「前に述べたことに、さらに何かをいい足す時につかうことば」で「ただし」と同じ意味ですから、答えは前の段落にあると予想がつきます。ここでは本文の5~6行目を指定字数に従って抜き出し、文を完成することができます。

問二

「『その人』が感情的に反発する根本的な理由」は本文の17行目に「私たちは、誰でも、自分のことを認めてほしいという根本的欲求を持っています。」とあります。ここが必要不可欠な表現となります。

問三

主部は「情報の信頼性や意見の妥当性は」です。「その人の何とは全く別の事柄」なのかを考えるとイの「人格」(人としての値打ち)が最も適切です。エの「適性」は文脈上外れます。アの「思想」は「意見の妥当性」に関わり、「情報の信頼性」は「知識」と結びつきますので誤りです。2行後の29行目に「自分が認められていない」とありますので、イの人格が最もふさわしいものとなります。

問四

質問は「なぜ感情的になることが望ましくないのですか」です。本文では34~53行目にわたっての感情的になることの問題点が3通り述べられています。次の54行目からが答えの「しっかりとした意見の交換ができなくなる」と「コミュニケーション上の障害」になるという2点です。アの「確実な知識の伝達をできなくさせ、『論争の種(ディベート)』をなくすことになり得る」などは本文で触れていません。イの誤りは「自己を客観的に見つめることになり得る」です。これは本文とは逆の意味です。エも同様に「本当の気持ちをいつわって相手にあわせるようになり得る」などは述べられていません。54行目に「その感情のために」とあります。したがってウが正解です。

問五

「聞き流す」は「聞いても心にとめない」ことを表す表現です。また「聞いてとがめだてをしない」という意味があります。

アの「聞き古す」は「何度も聞いて新しさがなくなる」という意味です。

イの「聞き届ける」は「人の願いなどを承知する」という意味です。

ウの「聞きかじる」は「話をちょっと聞いて、少しだけ知っている」という意味です。

エの「聞きとがめる」には「聞いて心にかける」「聞いて注意する」という意味があります。「心にかける」は「心にとめない」の反対になります、また「注意する」は「とがめだてをしない」の反対になりますので、エが正解です。

問六

「言いにくいことをいう場合の作戦」ですが、直後の 59 行目に「どのように言えばいいか、という『表現』への視点を持ってみる」とあることに注目します。これが一つ目のポイントになります。この視点から次の二つのポイントをさらに導き出すことができます。一つは 66 行目「『遠慮』はいりません」を用いてまとめます。もう一つは 67 行目「『配慮』はあっていいでしょう」を用いてまとめます。

問七

いずれも小学校で習う学習漢字です。

問八

エが正解です。

アは後半の「感情的なわだかまりをおそれず主張すべきである」が本文と異なっています。イも後半の「相手の人間関係を考えて意見はコントロールすべきである」は筆者の主張に反します。筆者は「配慮して言うべきだ」と述べています。ウは一文全体が誤りですが、「絶対に避けるべきである。」が間違っています。

2

物語文は岩瀬成子^{いわせしよこ}著『となりのこども』(理論社、2004年)からの出題です。父の入院騒ぎで大変な沢田くんと妹のみのりちゃん、そこに偶然巻き込まれた長井夕子・愛ちゃん姉妹と、姉妹の母が自転車盗難事件などにあいながらも、各々一生懸命に生活していく話の一コマです。

問一

傍線(1)「C-3棟をさがしている」理由ですが、さがしているのですから初めての訪問かと考えられます。とにかく、何かの用事があったはずねたと考えられます。本文中の

カッコの中からそれにあてはまる文は一つです。87 行目からの「お友だちに落し物を届けようと思って、一生懸命家をさがして歩いたんですよ」という夕子の母の言葉です。80 行目の「A - 1 から C - 3 まで」とを考えあわせるとこれ以外にありません。

問二

「愛」の言葉を聞いて、「お母さん」は夕子に対してどのような気持ちを持ちましたか、とありますので、61～68 行目の「愛」の言葉を確認します。次に「お母さん」の反応を 71～73 行目に読み取ります。すると、「夕子の親切な心をいいことだとうれしく思う気持ち」と、「理由を知らずに夕子をとがめたことに対する反省」の 2 点が分かります。

問三

アの「こそこそ」は「人に見つからないように、かくれてする様子」、イの「ひそひそ」は「人に聞こえないように、小さい声で話す様子」ですから、「お母さん」達の前で言うのは不適切です。エの「べらべら」は「よくしゃべる様子」でこれも場面に合いません。「口の中で何か言う」言い方はウの「ぶつぶつ」が適切ということになります。

問四

「沢田くん」の心理は直接述べられていません。そこで、「お店の人」の言葉に注意します。お店の人は 129～133 行目に書かれています。「ここで猫に餌をやるのはやめてちょうだい。猫が集まってきて困るの。うちは食べ物を売っているでしょう。その店の前に一匹だけならまだしも、四匹も五匹も猫が集まっちゃ、ちょっと感じ悪いの。猫好きの人もいるけど、猫が苦手の人もあるでしょ。おねがいね、餌をやるのはやめてね。」と行ってにっこり笑います。いかにも道理にかなったもったもなことです。そして物言いは丁寧です。正解はイです。

アは後半の「自分の利益だけを考えていることが分かった」以下が誤りです。ウは「きつく言われたので、内心は子ども扱いされて悔しい気持ちをこらえて」が本文と大きく異なっています。エは「お店の人の言ったことなど取るに足りないつまらない注意だと思った」ことが読み取れません。「沢田くん」の年齢はここでは分かりませんが、しっかりした素直な人柄であることは随所に読み取れます。

問五

毎年、毎回の出題です。今回は猫を使った慣用句です。実はこの物語の部分は「猫」という題名です。日常生活でも使われる慣用句ですので覚えている人が多いと思います。

問六

本文に入れる文は「言ったとたん、胸がどきどきした。」とありますので、誰の胸が、ど

うしてどきどきしたのか、を考えればよいわけです。登場人物から推測すると「夕子」のように思われます。〈あ〉は「愛」、〈い〉〈う〉〈え〉が「夕子」です。「夕子」が「うれしさなどで心臓がふだんより早く打つ（胸がどきどきする）」のは、一週間ぶりで「沢田くん」に会えた場面が最も自然です。102行目から内容をふまえておくとよく分かると思います。

問七

本文で問題になるのは時間の経過です。場面（場所）も含めてですが、時間に注目します。

問八

アは「みのりちゃん」が「他人のことなど少しも考えない人物である」とするのが間違いです。

イの「沢田くん」は「独善的などころのある人物である」がいけません。「独善的」（自分だけが正しいと考えているようす）な場面は出て来ません。

ウの「愛」は「母に対して抗議」をしています、「かたくなさ」からではありません。姉が母に悪く誤解されているのを正すための発言です。正解はエになります。

本日を持ちまして、本校の入試は終了いたします。2年前、3年前から受験に取り組んでこられた受験生諸姉が実力を遺憾なく発揮され、所期の目的を達せられますことを、私ども教職員、在校生一同、切に願っております。

また、これまでお子様方を温かく見守ってこられた保護者の方々、ご指導にあられた塾の先生方のご胸中察するに余りあります。僭越ではございますが、本当にお疲れ様でございましたと申し上げたく存じます。

これで国語の問題解説を終わらせていただきます。